

令和7年春の外国人叙勲授与式典

8月27日、令和7年春の外国人叙勲で旭日双光章を受章した、イスマエル・ミノル・カサハラ・ガリド元バルパライソ日系人協会会長への勲記・勲章伝達式が大使公邸で行われました。

同人は、1992年、日系人組織が存在しなかったバルパライソ州で、地域の日系人をつなぐ「バルパライソ日系グループ」を設立し、敬老会や講演会、会報誌発行等を通じて日本文化へのアクセスとチリ国内日系グループとの連携促進に尽力されました。また、2003年のバルパライソ日系人協会設立後は会長として、日本文化に関心のある人々が国籍・性別を問わず参加ができる組織運営を行い、日本語教育の拡充に尽力し、チリにおける日系社会の福祉向上及び日本・チリ間の友好親善に寄与しました。

式典では、伊藤大使がカサハラ氏の功績を称える祝辞を述べた後、勲記及び勲章を授与しました。カサハラ氏は答礼のスピーチにおいて、35年間関わってきたバルパライソ日系人協会の活動の紹介を行い、遠く離れた地から、大きく異なる環境、そして多くの困難を伴う環境に身を置くためにやって来た、祖先とその遺産に対する敬意と感謝を述べるとともに、叙勲の喜びを伝えました。

外国人叙勲は、日本との友好関係や相互理解増進等について顕著な功労のあった外国人に対して実施されるもので、令和7年春の外国人叙勲受章者は計107名（うちチリではイスマエル・ミノル・カサハラ・ガリド元バルパライソ日系人協会会長1名）でした。



勲記・勲章伝達



伊藤大使の祝辞



カサハラ氏謝辞



勲記伝達



集合写真